

京都大学大学院医学研究科 社会健康医学系専攻  
アドバイザーボード（教育課程連携協議会）2021年度会議 議事録

日時：令和3年11月22日（月）18：30～21：00

場所：オンライン会議

出席者：山口育子、柳澤 学、若尾文彦、Brian Taylor Slingsby、Sarah Louise Barber、池田雄史、吉中丈志、渡邊能行、磯博康、今中雄一、渡邊大、大森孝一、佐藤俊哉、山本洋介、川上浩司、小杉眞司、中山健夫、西浦博、古川壽亮、近藤尚己、岩隈美穂、佐々木典子、田近亜蘭、坂田昌嗣

陪 席：菅尾、森（大学院教務掛）

1. 開会あいさつ（専攻長）

専攻長から開会のあいさつが行われた。

2. 委員および社会健康医学系専攻出席者の自己紹介

委員および社会健康医学系専攻出席者から自己紹介が行われた。

3. 社会健康医学系専攻の全体像（専攻長）

専攻長から、社会健康医学系専攻の全体像について説明があり、主に社会健康医学系専攻の沿革や組織、アドバイザーボードの経緯、最近の学生像、専攻としての国際活動および研究業績について紹介された。

4. 社会健康医学系専攻の教育課程（教務委員会）

教務委員会委員長から、社会健康医学系専攻の教育課程について説明があり、主にMPH5領域および課程とコースについて紹介された。

5. 各分野の教育活動等について

各分野の教員から、各分野の教育活動等について説明があった。

6. 意見交換（質疑応答、アドバイス等）

委員より以下の指摘、提案および質問があり、種々意見交換を行った。

- ・多数のコースがあるが、コースを設置や廃止する基準は何か。
- ・将来的な構想をもってコースを設置することが大切だと感じた。
- ・歯学部出身の学生がいないが、歯学との連携をどのように思っているのか。
- ・感染症に興味を持っている学生は卒業後の進路についてどういったところに進もうとしているのか。
- ・他機関とのプロジェクトの連携はどのくらいあるのか。
- ・社会とのコネクションの接点を考えていただけるとよいと思う。
- ・志願者の動向はどうか。
- ・研究費が減っている要因は何か。

- ・今後機関でのリーダーシップやチームマネジメントをとれる人材を育成するコースはあるか。
- ・MIP でリーダーシップ力を養成する講座があるので、活用いただきたい。
- ・卒業後の進路で大学職員になっている人がいるが、なぜ大学職員という進路なのか。また、その人のその後のキャリアはどのようなキャリアなのか。
- ・教員の人材をキープするためにどのような対策をしているのか。
- ・たくさんの教員がいるので行政とタッグを組んで仕事や研究を横断的に行ってほしい。
- ・国際に関する教育を先生方の中でより意識されるとよいと思う。
- ・国際的にアピールするためにはアジアの優秀な学生を育てて日本の評判をあげていくとよいと思う。
- ・卒業後の進路で製薬企業が一般企業より少ないが、一般企業については、どのようなところに行かれているか。
- ・製薬企業側から協力できることがあれば協力したい。
- ・5年後ぐらいに医療統計を学んだ学生が自治体で活躍するケースが出てくると思うか。
- ・基礎系とのコラボレーションがもっとあればよい。
- ・社会健康医学系専攻から社会への発信を期待したい。

以上